令和2年度　学校運営協議会委員による評価書　　東洋町立甲浦中学校　　学校教育目標　「主体的にチャレンジし、学びを将来につなぐことができる生徒の育成」

項目	自己評価	めざす生徒像	主　な　取　組　内　容	取組内容の評価指標	達成状況	改善方策	学校運営協議会委員コメント	評価
チャレンジ精神	S・(A)・B・C	主体的に挑戦し、成功や失敗を学びとして、夢に向かって努力することができる生徒	①生徒のチャレンジに対し肯定的な評価・励ましを行う。 ②行事や取組の振り返りを充実させ、次につながる指導や支援を行う。 ③生徒が自分自身で選択・決定する機会を設ける。	●(めざす生徒像　アンケート　生徒版) (　　)は肯定的意見の割合全校生徒24人 ①主体的にチャレンジする気持ちを大切にしている (70．8%→75%)　※17人→19人 ②うまくいかなかった経験からの学びを大切にしている (91．7%→95．8%)　※22人→23人 ③将来の夢や目標に向かって努力している (91．7%→95．8%)　※22人→23人	●(めざす生徒像　アンケート　生徒版) (　　)は肯定的意見の割合　全校生徒24人(4月→12月) ①主体的にチャレンジする気持ちを大切にしている (70．8%→91.7%)　※17人→22人 ②うまくいかなかった経験からの学びを大切にしている (91．7%→95．8%)　※22人→23人 ③将来の夢や目標に向かって努力している (91．7%→88．3%)※22人→20人 ★目標達成の項目　①② ■各教科や部活動の取り組み等で生徒の意識の向上が表れている。チャレンジする気持ちや振り返りの充実により生徒は学びを繋ごうという意識は向上した。ただし、夢や目標を持っているがまだまだ努力しているかという問いかけには不十分であると考えている生徒もいる。	①生徒のチャレンジに対し肯定的な評価・励ましを行う。 ②行事や取組の振り返りを充実させ、次につながる指導や支援を行う。 ③生徒が自分自身で選択・決定する機会を設ける。	○成果が見られる。中でも、生徒がチャレンジする気持ちを大切にしていることは、アンケート結果の高い達成度に加えて、行事での様子や、学校通信での取り組みの発信や評価からもよく見える。学校が一貫して生徒のチャレンジを肯定的に評価し、生徒もチャレンジすることで学びが深まり成長につながっている。 ○今後はコロナ禍の中でも何にチャレンジしていくかの検討がポイント。	S・(A)・B・C
コミュニケーション力	S・(A)・B・C	生きた挨拶や場に応じた言葉遣いができ、『話す・聞く』を大切にできる生徒	①生徒が自分自身の考えを全体に発表する機会や、他者の考えについて意見を述べる場面を多く作る。 ②教職員自らが適切な言動を心がけ、気持ちの良い挨拶や丁寧な言葉遣いに留意する。 ③1分間スピーチを活用する。	●(めざす生徒像　アンケート　生徒版) (　　)は肯定的意見の割合全校生徒24人 ④自分からすすんで人にあいさつしている (87．5%→91．7%)　※21人→22人 ⑤人の考えや発表を誠実にきいている (87．5%→91．7%)　※21人→22人 ⑥自分の考えや思いを伝えることができる (75．0%→83．3%)　※18人→20人	●(めざす生徒像　アンケート　生徒版) (　　)は肯定的意見の割合　全校生徒24人(4月→12月) ④自分からすすんで人にあいさつしている (87．5%→87．5%)　※21人→21人 ⑤人の考えや発表を誠実にきいている (87．5%→100%)　※21人→24人 ⑥自分の考えや思いを伝えることができる (75．0%→83．3%)　※18人→20人 ★目標達成の項目　⑤⑥ ■各学年や集会での1分間スピーチの取り組み等できく・話す事への意識が高まり経験を重ねることで多少の自信につながっている。	①生徒が自分自身の考えを全体に発表する機会や、他者の考えについて意見を述べる場面を多く作る。 ②教職員自らが適切な言動を心がけ、気持ちの良い挨拶や丁寧な言葉遣いに留意する。 ③1分間スピーチを活用する。	○個々の生徒からコミュニケーション力の向上を感じる。挨拶も生徒から進んでよくできている。1分間スピーチも学校通信等から全校での取り組みの充実がうかがえる。 ○今後は人前で発表したりする経験を多く作っていくことや言葉遣いの幅が広がれば良いと思う。 ○生徒からの挨拶を待つのではなく、大人から先に挨拶することも必要である。	S・(A)・B・C
自尊感情	S・(A)・B・C	自分や他人を大切にでき、自分自身に誇りを持って行動できる生徒	①生徒が互いに認め合う、褒め合う等肯定的評価を行う機会を多く設定する。 ②生徒の長所や良き言動を認め、タイムリーな評価を行う。 ③生徒も教職員もお互いに感謝の気持ちを多く伝える。	●(めざす生徒像　アンケート　生徒版) (　　)は肯定的意見の割合全校生徒24人 ⑦自分には良いところがある (62．5%→75%)　※15人→18人 ⑧人を思いやる心を大切にしている (79．2%→87．5%)　※19人→21人 ⑨自分の考えや判断を大切にして行動している (75%→83．3%)　※18人→20人	●(めざす生徒像　アンケート　生徒版) (　　)は肯定的意見の割合　全校生徒24人(4月→12月) ⑦自分には良いところがある (62．5%→87．5%)　※15人→21人 ⑧人を思いやる心を大切にしている (79．2%→100%)　※19人→24人 ⑨自分の考えや判断を大切にして行動している (75%→95．8%)　※18人→23人 ★目標達成の項目　⑦⑧⑨ ■全教職員が、学校行事や学年、部活動や授業で生徒が活躍する場面の設定や肯定的評価を行った結果、全ての項目で大きな向上が見られ、自尊感情の高まりが見られたことは成果と言える。	①生徒が互いに認め合う、褒め合う等肯定的評価を行う機会を多く設定する。 ②生徒の長所や良き言動を認め、タイムリーな評価を行う。 ③生徒も教職員もお互いに感謝の気持ちを多く伝える。	○年度当初から見て全ての項目で成果が見られ、生徒が自信を付けていることが分かる。 ○「人を思いやる心」の肯定的意見が100%であることに驚きと感動があり嬉しく思った。取り組んでいることが成果として表れている。今後はさらに取り組みを充実させていくことが大事である。 ○コミュニケーション力が向上すると自尊感情も高まってくる。	S・(A)・B・C
郷土愛	S・A・(B)・C	地域愛をもち、甲浦の良さを誇り、地域に貢献できる生徒	①地域行事への協力体制を作る。 ②郷土のことを取り入れた授業や体験を行う。 ③総合的な学習の時間の取組を充実させ、地域の良さや課題を学ぶ場を設定する。	●(めざす生徒像　アンケート　生徒版) (　　)は肯定的意見の割合全校生徒24人 ⑩自分の住んでいる地域が好きである (75%→83．3%)　※18人→20人 ⑪地域の魅力を伝えることができる (58．3%→75%)　※14人→18人 ⑫地域のために貢献できる人間になりたい (58．3%→75%)　※14人→18人	●(めざす生徒像　アンケート　生徒版) (　　)は肯定的評価の割合　全校生徒24人(4月→12月) ⑩自分の住んでいる地域が好きである (75%→70．8%)　※18人→17人 ⑪地域の魅力を伝えることができる (58．3%→66．7%)　※14人→17人 ⑫地域のために貢献できる人間になりたい (58．3%→62．5%)　※14人→15人 ★目標達成の項目　なし ■総合的な学習の時間を活用して調べ学習等をすすめ、文化発表会で取り組みの発表をしたが、コロナ禍の影響もあり十分な体験等ができなかった。しかし、発表や取り組みを通じて、生徒の意識には『地域』という言葉が随分大きな存在になってきているように感じる。	①地域行事への協力体制を作る。 ②郷土のことを取り入れた授業や体験を行う。 ③総合的な学習の時間の取組を充実させ、地域の良さや課題を学ぶ場を設定する。	○コロナ禍の中、祭りやイベントがなく、地域との協働する機会がとれなかったため、厳しい結果になっていることは理解できる。可能な限りの地域行事への参加も考えて欲しい。 ○文化発表会等の取り組みと発表から地域の良い所を見直す機会や取り組みができていたと思う。 ○地域学習を取り入れ地域の人や地域のことを知ってもらいたい。	S・A・(B)・C
学力向上	S・A・(B)・C	主体的・対話的に学び、学習した内容を活用して、問題解決することができる生徒	①授業力を向上させ、生徒が『できた』を実感する授業を行う。 ②生徒が主体的に問題解決できる場面を設定する。 ③『めあて』を効果的に提示し、『まとめ』を共有させる。	●(めざす生徒像　アンケート　生徒版) (　　)は肯定的意見の割合全校生徒24人 ⑬授業では課題解決に向けて、自分から積極的に取り組めている (75%→83．3%)　※18人→20人 ⑭話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできている (79．2%→83．3%)　※19人→20人 ⑮平日、家庭学習に90分以上取り組んでいる (79．2%→87．5%)　※19人→21人	●(めざす生徒像　アンケート　生徒版) (　　)は肯定的意見の割合　全校生徒24人(4月→12月) ⑬授業では課題解決に向けて、自分から積極的に取り組めている(75%→95．8%)　※18人→23人 ⑭話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできている (79．2%→95．8%)　※19人→23人 ⑮平日、家庭学習に90分以上取り組んでいる (79．2%→83．3%)　※19人→20人 ★目標達成の項目　⑬⑭ ■主体的に学び、対話的な学びという点では意識が高まっているが、できた、と実感できる取り組みには至っていない。学力の2極化に対応しきれていない。	①教員自らが授業力を向上させ、『できた』を実感する授業を行う。 ②生徒が主体的に問題解決できる場面を設定する。 ③『めあて』を効果的に提示し、『まとめ』を共有させる。	○学力向上には、学校と家庭が連携して生活習慣を見直していく必要を感じる。 ○アンケート結果にある「自分の考えが深まったり広がったりした」体験談を知りたい。取り組みから個々の努力は見えている。 ○課題の克服に向けてさらに取り組みを進めて欲しい。	S・A・(B)・C
生活習慣	S・(A)・B・C	時間やルールが守れ、礼儀を大切にし、当たり前のことが当たり前にできる生徒	①生活7カ条を活用し、自分の生活を振り返させる。 ②絶えず振り返る機会を作り、『当たり前』を意識させる。 ③生徒の見本となるような言動を心がける。	●(めざす生徒像　アンケート　生徒版) (　　)は肯定的意見の割合全校生徒24人 ⑯毎日朝食を食べている (100%→100%)　※24人→24人 ⑰約束した時間や決められたルールを守っている (87．5%→91．7%)　※21人→22人 ⑱当たり前のことが当たり前にできている(あいさつや掃除等) (95．8%→95．8%)　※23人→23人	●(めざす生徒像　アンケート　生徒版) (　　)は肯定的意見の割合　全校生徒24人(4月→12月) ⑯毎日朝食を食べている (100%→100%)　※24人→24人 ⑰約束した時間や決められたルールを守っている (87．5%→91．7%)　※21人→22人 ⑱当たり前のことが当たり前にできている(あいさつや掃除等) (95．8%→00%)　※23人→24人 ★目標達成の項目　⑯⑰⑱ ■生活7か条を活用した取り組みや学校通信や保健便り、東洋っ子生活リズム計画の活用が生徒のより良い習慣の定着につながっている。	①生活7カ条を活用し、自分の生活を振り返らせる。 ②絶えず振り返る機会を作り、『当たり前』を意識させる。 ③生徒の見本となるような言動を心がける。	○全ての項目で目標が達成され生徒も教職員も意識して取り組みをすすめていることが分かる。 ○振り返りを充実させるには生活7カ条を活用した取り組みに加え、「歩み」を活用してみてはどうか。さらに上を目指して欲しい。	S・(A)・B・C

※評価欄　　評定S「優れている」、評定A「良い」、評定B「おおむね満足」、評定C「要改善」

※この評価書は、年度末に学校のホームページで公表